

宮島

(みやじま)

位置：北緯34度14分、東経132度17分／標高：0～80m／面積：142ha／湿地のタイプ：砂浜海岸、塩性湿地、河川／保護の制度：国立公園特別地域、特別史跡・名勝／所在地：広島県廿日市市／登録：2012年7月／国際登録基準：2、9

湿地のタイプ：砂浜海岸、塩性湿地、河川



ミヤジマトンボが生育する宮島。右側の沿岸域が登録湿地



厳島神社



ミヤジマトンボ (幼虫)



ミヤジマトンボ (成虫)

宮島の概要：

宮島(厳島)は、瀬戸内海の沿岸、広島湾の北西部に位置する、長さ約10.5km、幅約3.5km、面積約3,020ヘクタールのほぼ長方形の島である。

島の最高峰の弥山(535m)山頂付近の「瀾山(みせん)原始林」は、我が国の暖地温帯林の代表的なものとして国の天然記念物に指定されている。自然に神をみる日本古来の信仰をそのまま形にし、見事に自然美と人工美とを調和させている厳島神社は、背面の弥山と一体で、世界文化遺産として登録された。

希少な瀬戸内の自然海岸：

ラムサール条約湿地として登録された湿地は、宮島南西部の沿岸域である。瀬戸内海の海岸の60%以上が人工もしくは半自然海岸となった今でも、この一帯には人工物がなく、瀬戸内海本来の貴重な自然海岸が残っている。その海岸線には、山間からの湧出水と大潮時に流入する海水とが混じる潮汐湿地が形成されている。潮汐湿地にはヒトモトススキが優占する湿性草地在形成され、周辺の砂浜にはハマゴウ等の海浜植物が、林縁部には宮島の固有変種であるコテリハキンバイ等が見られる。

希少種ミヤジマトンボの生息地：

潮汐湿地には、宮島の固有亜種ミヤジマトンボが生息している。ミヤジマトンボは、他のトンボの幼虫が生息できないこの特有の汽水域にのみ生息する。宮島以外では香港で確認されているだけである。環境省レッドリストでは絶滅危惧ⅠA類、広島県レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅰ類として掲載されており、瀬戸内海国立公園の指定動物及び広島県野生生物の種の保護に関する条例による特定野生生物種に指定され保護されている。

ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会が中心となって保護活動が行われており、生息状況調査や、湿地周辺に堆積した土砂やゴミの除去、海水の出入水路の維持管理などが行われている。また、台風などの影響で生息地が破壊されることによる絶滅を防ぐため、島内の別の湿地への生息地分散や、人工飼育にも取り組んでいる。

条約湿地と産業のつながり：

カキ料理は宮島の郷土料理であるが、宮島のラムサール条約湿地の沖合は300年の歴史を持つ、カキ養殖に好適な漁場である。これは、宮島の原生自然を源流とする、栄養分豊かな山水が沖合に流れ

込んでいるためである。

●関係自治体

廿日市市役所 Tel: 0829-20-0001

